



会社経験が役立った 農家の道

特集 移住という新たな挑戦

突然の就農

千葉県では会社員として働いていた古川和親（ふるかわかずちか）さん。結婚を機に山形県酒田市へ移住し、移住後も会社員として働いていた。平成22年秋、妻の父が稲刈り直前に倒れ、妻の実家の農業を継ぐ形で突然就農すること。

「妻の実家が農家ということもあり、いつかは農業をすることになるとは思っていたものの、想像以上に早かった。」と話す古川さん。農業は未経験だったが、やるしかない、という気持ちで農家の道へ。3月に会社を退職するまでの約半年間は、会社に勤めながら農作業をしていたという。

継いだ当時の経営は約12ha。10年目の現在は、約17haまで面積を拡大。はえぬき、つや姫、飼料用米を作付けし、昨年からはシャインマスカットにも取り組んでいる。

組織では欠かせない存在に

就農してすぐ、地域の農地や水路を守る「飛鳥砂越広域地域保全会」の役員として、多面的機能支払活動に加わった古川さんは、会社員時代の経理経験を活かし、保全会に加わった当初から現在まで、会計担当を務めている。経理作業が大変で活動を休止する組織も多い中、経理作業が好きという古川さんは、組織の中で欠かせない存在だ。

古川さんのホンネに迫る



古川 和親さん (43歳)
【酒田市飛鳥あすか】

・就農前の農業の印象

「全く気にも留めておらず、景色の一部としかみていなかった。コンバインって何？というくらい農業の基本的知識がなかった。」

・就農後の農業の印象

「今では、農業中心の生活になっている。常に農業の事を考え、車を運転すれば、他の人の作業風景を見て勉強してしまう。」

・農業経営の知識の身に着け方

「地区の農家の方から教わった。他には、地域農業情報誌を見たり、若手農業者が集まる研修会に参加して身に着け、自分の考えで実践している。」

・農家のやりがい

「自分の頑張りが見え、収入に直結すること。」

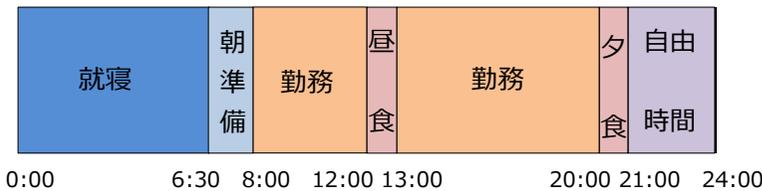
・今後の目標

「経営面積を20haまで拡大させること。いつでも20haまで拡大してもいいように、計画を立てて作業をしているため、今は余裕をもって楽にできている。農地を荒らしたくないという想いがあり、自分が管理できる範囲で続けていきたい。」

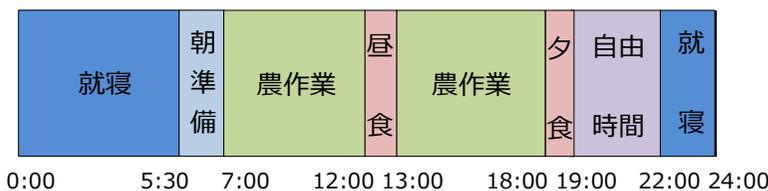


JA庄内みどり青年部の役員として、小学校へ農業体験指導も行っている。
(古川さん：写真右側)

会社員時代の一日



就農後の一日



心がけていること

家族との時間を大切にすること。土曜日、日曜日関係なく作業をしているため、家族と出かけることがあまりない。そのため、計画を立てて作業し、毎日18時までには作業を終わらせ、必ず家族と一緒に夜ご飯を食べるようにしたり、毎週半日程度は一緒にいる時間をつくるようにしたりしている。